

研究目的

本研究の目的は、妊娠期から産褥期にかけて助産師が継続ケアを行う助産師主導ケアと、医師主導ケアを受けた母子の健康状態を比較することである。

研究デザインと方法

本研究は、助産師主導ケアと医師主導ケアとを比較する自己記入式質問紙を用いた観察研究である。研究対象者は、正期産で経膈分娩によって単胎児を出産した女性である。研究期間は 2011 年の 2 月から 10 月までであった。本研究は、聖路加看護大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った(承認番号：10-065)。

用いた測定用具は、女性を中心としたケア-妊娠期尺度、Stein のマタニティーブルーズ尺度(Stein の MB)、エジンバラ産後うつ病自己評価票(EPDS)である。分娩のアウトカムに関しては、研究者が診療録より直接データ収集を行った。質問紙の配布は、入院中の出産後 3 日目以降と 1 ヶ月健診時の 2 回行った。

入院中の女性 280 人(助産師主導 149 人、医師主導 131 人)とそのうち出産 1 ヶ月後に回答をした女性 238 人(それぞれ 133 人と 105 人)が分析に含まれた。

結果

助産師主導ケアを受けた女性と医師主導ケアを受けた母子のアウトカムを比較すると、次のようであった。1) 助産主導ケアを受けた女性の女性を中心としたケアの認識($p < .001$)と、妊娠・分娩・産褥期を通じた満足度($p < .001$)は、医師主導ケアを受けた女性よりも有意に高かった。2) 助産師主導ケアを受けた女性の分娩のアウトカムは、医師主導ケアを受けた女性と比較して前期破水($p = .030$)が有意に少なかった。児のアプガースコアは同等で、両群とも正常児であった。3) 助産師主導ケアを受けた女性は、医師主導ケアを受けた女性よりも入院中(助産師主導 vs. 医師主導：91.2% vs. 51.1%, $p < .001$)と出産後 1 ヶ月時点(助産師主導 vs. 医師主導：83.3% vs. 67.6%, $p < .001$)の完全母乳率が有意に高かった。4) 助産師主導ケアを受けた女性の Stein の MB 得点は、医師主導ケアを女性と比較して有意に低かった($p < .001$)。EPDS の得点も助産師主導ケア群の女性の方が医師主導ケアを受けた女性よりも低かったが、これには有意差はみられなかった。

結論

産科的にリスクの低い女性に対して行う継続的な助産師主導ケアは、医師主導のケアと比較して母子の健康状態は劣らなかった。